

2010年度

社会活動報告書



SHIMANO
www.shimano.com

株式会社シマノ
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
広報部 広報課
Phone: 072-223-3957
Fax : 072-223-6045

この冊子は「レイクパビルス」(葦混抄紙)を使用しています。
琵琶湖の「西の湖」に群生するヨシは、春から冬に枯れるまでの間、湖の水をきれいにします。
枯れて朽ちる前に、毎年刈り取る必要のあるヨシをリサイクルしてできたのが「レイクパビルス」で、
この冊子1冊につき琵琶湖の水、約1,080ℓの水が浄化されたこととなります。

2011年3月9日発行 ©2011 by SHIMANO INC. Printed in Japan XBC IZM K-008

SHIMANO

2010年度 社会活動報告書 発刊にあたって



2010年度 社会活動報告書 発刊にあたって 3

企業価値の向上を目指して 4
 こころ躍る製品を
 シマノを支えるひとづくり
 内部統制の強化

喜びの高揚 8
 自転車博物館 サイクルセンター
 フィッシングカフェプロジェクト&シマノTV
 ライフ・クリエーション・スペースOVE (オーブ)
 その他の活動

利用環境の改善と保全 12
 シマノグリーンプラン
 身近な環境に対する取り組み
 環境負荷低減への取り組み
 チームシマノの自転車通勤促進
 その他の活動

信頼の構築 18
 こども達と学び考える
 地域の一員として
 安全で楽しい自転車利用をめざして

2010年度 社会活動報告書を読んで 22

チームシマノ基本理念 23

1921年、島野鉄工所としての創業から90年。

当社は多くの自転車や釣りを愛する方々、株主の皆様、
そしてチームシマノに働く全ての従業員に支えられ、
魅力ある製品作りに邁進してまいりました。

自転車部品、釣具、ボート用品など、
アウトドア・スポーツの分野で「こころ躍る」製品の提供を通じて、
人々の健康とよろこびに貢献することが当社の使命であり、
当社の存在意義であると思っております。

世の中を取り巻く状況がおおきく揺れ動く今、
さまざまな商品やサービスの品質や魅力は勿論のこと、
それらを提供する企業に対する安心感・信頼が、
社会が求める最大の価値となってきております。

当社は創業からの志をわすれず、
長きにわたり企業市民としての責任と役割をわきまえ、本業にいそしみ、
次の10年、そしてその先においても「価値創造企業」として
成長を続けることで、社会に貢献いたしてまいります。

そのような観点から今後も引き続き、背伸びせず、着実に、
当社ならではの社会活動を、グローバルに展開してまいります。

皆様方に当社をご理解いただく上で、
この報告書がその一助となれば幸いです。

株式会社シマノ
代表取締役社長

島野 容三

企業価値の向上を目指して

—— ころ躍る製品を

当社の事業活動の基本は、「ころ躍る製品」を社会に提供することです。
使いやすく、快適に走行できる自転車部品、テクノロジーと感性が融合した釣具に加え、
ウェアやシューズなど、その楽しさをより広げる製品をお届けすること。
そして自然とともに楽しむサイクリング、フィッシングの素晴らしさを伝えることで、
お客様のライフスタイルをより豊かなものにしていきたいと考えています。

自転車部門

■ 電動アシスト自転車用コンポーネンツ (Shimano STePS)

世界中で広がりを見せる電動アシスト自転車市場に向け、
当社は電動アシスト自転車用コンポーネンツ「Shimano STePS」を発表しました。2011年には、
自転車利用の進んだ欧州で発売を開始します。

■ MTBコンポーネンツの最高峰、XTRシリーズ

MTBコンポーネンツの最上級グレードとして、
ニューXTRシリーズが満を持してフルモデルチェンジしました。
ライダーの能力を最大限に引き出すリア10スピード・
ドライブトレインをはじめ、様々なパーツを一新。次世代のベン
チマークとなる革新的な技術で、MTBライダーのニーズに
応えます。



釣具部門

■ ICASTで9年連続の受賞

アメリカの業界向け釣具展示会「ICAST」において、
当社のリールとロッドが9年連続の受賞を果たしました。

■ EFTTEXでも4年連続の受賞

ヨーロッパの釣具見本市「EFTTEX」でも、4年連続で
「ベスト・ニュー・スピニングリール」の賞をいただきました。



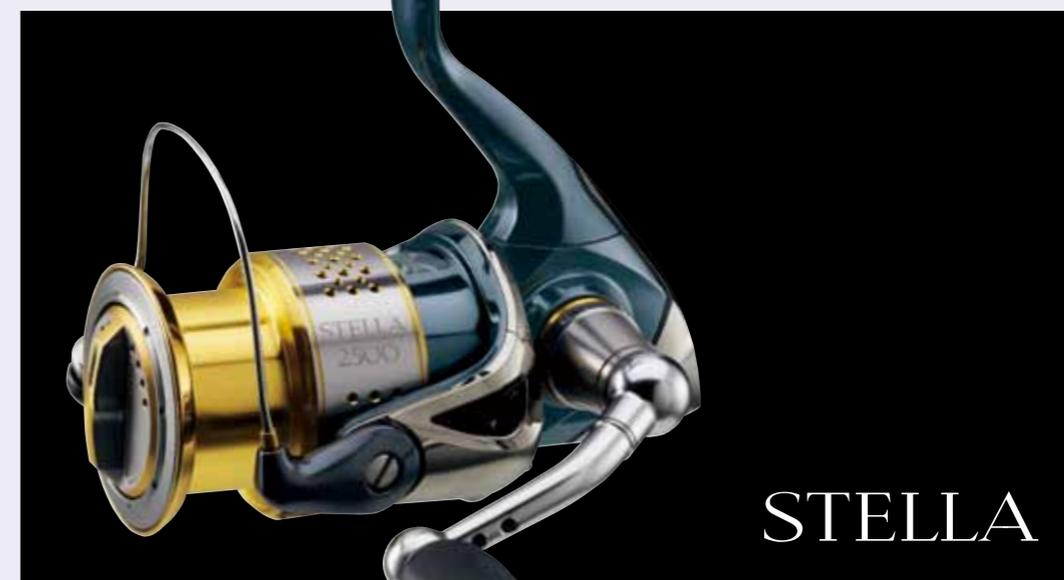
ベストソルトウォーター
ロッド賞



計6モデルのシマノ製品が
受賞しました



ベスト・ニュー・スピニング
リール「STELLA FE」



ボート事業

■ FISAでのテクニカルサポート

昨年、ロウイング(ボート競技)の世界に投入した「SRD」(シ
マノ・ロウイング・ダイナミクス)が、国際大会での使用を
認められたことにより、2010年からFISA(国際ボート連盟)
が主催する国際大会でのテクニカルサポートを開始しました。





研修制度

当社では組織を支えるひとづくりを世界中の拠点で進めています。当社の共通語である英語を中心とした語学研修をはじめ、各自の技術を高めるものづくりに関する専門的な研修など、選択できる内容は多岐にわたります。これらの研修を通じて、日々の業務で役立つ思考法や、専門知識の取得をサポートしています。

新入社員研修

■ 経験・実践を重視

講義に加え経験・実践を重視したカリキュラムを行っています。



自社製品が生み出す楽しみを知る機会としての自転車実走・釣り体験



チームで行動する大切さを学ぶチームビルディング



当社の基盤である、ものづくりの現場を見学

■ 全世界で理念を共有

通年採用を行っている海外拠点では、新たに加わった社員に対して、当社の歴史や、企業理念を理解してもらおう新入社員研修を行っています。当社社員はチームシマノの一員として、全世界共通の理念のもと、考え、行動します。



シマノ上海での新入社員研修

グローバルな視点の育成

'01年スタート

■ 目に見えない現場力の習得

当社では、「広い経験」を積むために、海外の販売店に国内のスタッフを派遣する活動 SLD (シマノ・リーダーシップ・デベロップメント) を行っています。これは世界各地の自転車販売店様のご協力を得て、約3ヶ月間現場で働き、その体験を通じて、その土地の文化や仕事を学ぶプログラムです。

■ 海外実習生の受け入れ

当社では海外拠点から実習生を受け入れています。技術・知識の習得に加え、様々な部署でチームシマノの仕事とモノの流れを学ぶ実習を年2回開催。期間中、販売の現場に出向き、自国で担当していた製品が店頭に並ぶ様子を見学するなど、世界に広がるチームシマノの一員としての役割を自覚する機会も設けています。

■ 語学教育の推進

チームシマノの中で、日本語が話せるメンバーは、約1割。コミュニケーションを行う上で、外国語の習得は必修です。当社の共通語となる英語をはじめ、中国語研修なども行っています。



内部統制の強化

■ 財務報告に係る内部統制

「金融商品取引法」により、財務報告に係る内部統制を評価し、「内部統制報告書」を提出することが義務付けられています。当社は2007年より内部統制及びその評価体制の構築に取り組み、2010年3月に内部統制が有効である旨の報告書を提出することができました。

'06年スタート



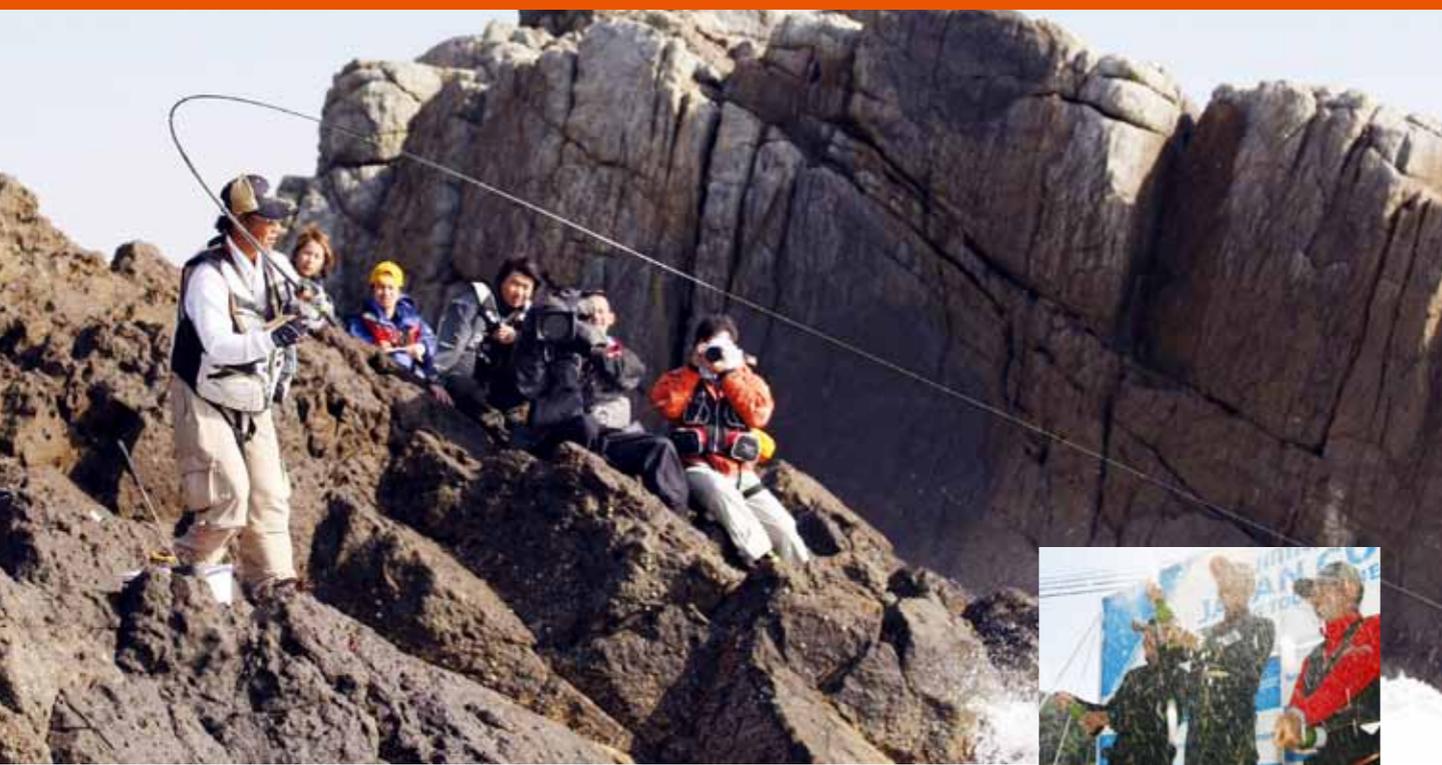
海外の現場で経験を重ね、広い視点を身につけます



世界各国から日本へ、多くの海外実習生を招いています

喜びの高揚

——人々に楽しみと喜びを提供する



ジャパンカップ2010



シマノフェスタ2010 (ブラジル)

こころ躍る製品を通じて、自転車、釣りの楽しさをより多くの人々に広げることは、当社の重要な活動のひとつです。プロレーサー、トッププレイヤーの最高のパフォーマンスを目の当たりにできるイベント。ビギナーの方にわかりやすく、安全な楽しみ方を理解していただくための講習会。日本国内はもちろんのこと、世界各地で様々な取り組みを展開しています。

自転車博物館 サイクルセンター



自転車の発展史を学べる2階展示場

'92年スタート
本社と同じ堺市に、1992年に開館した自転車博物館 サイクルセンター（運営：財団法人シマノ・サイクル開発センター）。博物館を自転車の展示場所にとどめず、自転車のあるライフスタイル、実際に楽しむためのノウハウなどを提案・発信する拠点と位置づけ、様々な活動を行っています。

自転車散歩・健康サイクリング

'97年スタート



初心者から上級者まで楽しめる機会を提供しています



自転車乗り方教室
自転車が初めての方でも、1日で乗れるように丁寧に指導しています

もず
アクセス：JR阪和線「百舌鳥」駅から徒歩10分
〒590-0801 大阪府堺市堺区大仙中町18-2

「こども絵画コンクール」の開催

'92年スタート

自転車博物館開館以来、「夢の自転車」「人と自転車の生活風景」などのテーマで小学生の作品を募集。現在では応募数が30,000件を超える大規模なコンクールへ成長しました。



身近な自転車を主題に、こども達の観察眼や想像力が発揮されます

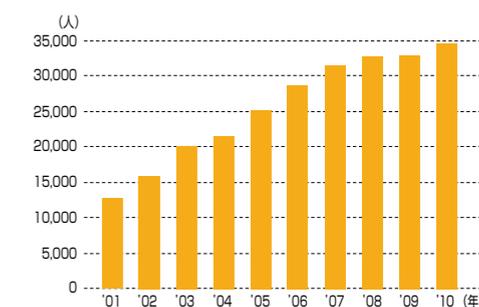


コンクール募集期間中は、写生目的の入館を無料にしています。館内には写生台も設置



3階展示場には、過去の応募作品を壁一面にあしらっています

「こども絵画コンクール」応募者数



● **フィッシングカフェプロジェクト&シマノTV**



「釣りの魅力、楽しさ、奥深さを伝えたい」という思いで2000年にスタートしたフィッシングカフェプロジェクト。雑誌、CS番組、WEBなど、様々な媒体を通じて、「釣り」を文化的・社会的視点から紹介するシマノ独自の取り組みです。取り上げるテーマは文学や、美術・芸術、社会、教育、自然、環境など多岐にわたり、釣り人以外の方々にも奥深く、心に響く釣りの世界に触れていただくことをめざしています。またウェブコンテンツとして、いつでもどこでもご覧いただけるフィッシングチャンネル「シマノTV」もますます充実。地デジで放送された番組はもちろん、他では視聴できない特別コンテンツまで、釣りファン必見の内容です。



フィッシングチャンネル「シマノTV」
<http://tv.shimano.co.jp/>

● **ライフ・クリエーション・スペース OVE (オーブ)**

'06年スタート



遊び心をくすぐる、数々の道具を取り揃えています。

OVEは、ゆったりと、豊かな自転車ライフを送っていただくため、新しい自転車文化の発信基地として、活動しています。

アクセス：東京メトロ銀座線・半蔵門線「表参道」駅 または「外苑前」駅から徒歩8分
〒107-0062 東京都港区南青山3-4-8 トレドイカーサ1階



季節の移ろいや食文化に触れるよこび、身近な建物や歴史を辿る楽しみ。OVE散走はテーマを持ってゆっくりと散策する自転車の新しい楽しみ方を提案しています



健康・環境を意識した厳選の有機食材で作られるカフェメニュー

その他の活動

イベントの主催・協賛

世界各地で自転車や釣りのイベントを開催および協力しています。



シマノカップ(中国)



シマノ杯へら釣り大会(中国)



シマノ鈴鹿ロードレース



ファミリーファンバイク(インドネシア)

■ 自転車主催イベント

- シマノ鈴鹿ロードレース(日本) '84年スタート
- バイクーズフェスティバル(中国) '03年スタート
- シマノショートトラック(ブラジル) '09年スタート

- シマノバイクーズフェスティバル(日本) '91年スタート
- シマノカップ(中国) '09年スタート

■ 釣り主催イベント

- シマノジャパンカップ(日本) '84年スタート
- シマノ杯へら釣り大会(中国) '02年スタート
- シマノルアー講習会(中国) '10年スタート

- シマノカップ韓国へら釣り大会(韓国) '08年スタート
- ファンフィッシング インドネシア '07年スタート



シマノルアー講習会(中国)

■ 自転車協賛イベント

- Highland Fling MTBマラソンチャンピオンシップ(オーストラリア)
- Shop-in-Shopレーシング(中国) '03年スタート

UCIへの協賛・協力

Global UCI(国際自転車競技連合)にオフィシャルパートナーとして協賛し、世界の自転車競技、サイクルスポーツ文化を支援しています。'99年スタート

レーシングチーム

Global シマノレーシング、スキル・シマノを通じて、アジアの若手選手を育て、世界のトップレベルのレースへ挑戦する機会をつくり、夢を育てています。'72年スタート

テクニカルサポートカーの派遣

Global トップレベルのプロレースだけでなく、幅広いサイクルスポーツイベントにサポートカーとスタッフを派遣。参加者の皆様に安全に楽しんでいただくことを第一にテクニカルサポートを行っています。

自然公園内での自転車道の整備

USA, CANADA シマノアメリカンおよびシマノカナダでは、自転車走行が自然に与える影響を抑えるために、科学研究データに基づいて、適切に整備された自転車道の有効性を検証する活動に協力しています。

水産資源の適切な利用

USA, CANADA シマノアメリカンおよびシマノカナダでは、多くの漁業団体や政府代表と協働で、漁業管理政策の成立に取り組んでいます。科学的根拠に基づいた水産資源利用をめざした実用的な方策の作成に協力しています。

アイアンマン大会への協賛・協力

Global WTC(ワールドトライアスロンコーポレーション)が主催するアイアンマンの大会オフィシャルスポンサーとして、トライアスロンを支援しています。'10年スタート

利用環境の改善と保全

—— 自然環境、生活環境、製品利用環境の改善と保全への協力



アウトドア・スポーツを楽しむためのフィールドである地球環境を保全するためにたゆまぬ努力を続けることは、チームシマノの基本的な命題です。製品をつくる過程において環境負荷を抑えるための技術改良・革新に日々取り組むとともに、フィールドの清掃や環境改善活動へも積極的に参加しています。



'04年スタート



品質管理部 QIT課
武宮由季

当社では、製造工程においてもエコロジカルであり、環境負荷の低い製品づくりを行うための指針として「シマノグリーンプラン(以下SGP)」を策定し、その遵守に力を注いでいます。

■ より実効性を高めるために

2004年に始動したSGPは、これまで毎年見直され、2009年度第7版まで改訂を行ってきました。2010年度はこれまで重ねてきた改訂による指針の実効性をより高めることに注力しました。

そのために力を注いだのは、セルフチェックシートによる協力会社様との連携、コミュニケーション強化です。各協力会社様では、弊社からの遵守要求項目を自己評価後、提出。それらを分析・評価した後、改善に活用していただけるアイデアを提供するなどきめ細やかな指導を行いました。

この活動には国内だけで700社、全世界規模で1500社の協力会社様に参加していただきました。また各工場間の基準・評価にばらつきをなくするため、SGPコミッティと呼ばれるミーティングを数回開催し、その整合性を高めました。

■ 新たな法規制への対応

近年世界各国の法規制は、有害な物質だけでなく有害性が懸念される物質についても管理するよう変わっています。それらについての情報提供、安全性の証明も当社の新たなタスクとなっています。

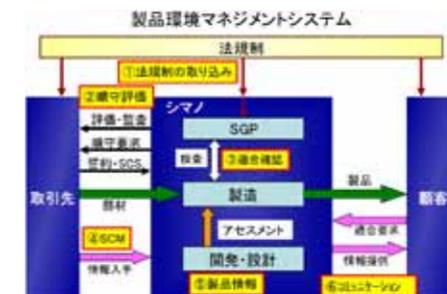
これからも当社では、安心してご使用いただける製品づくりを目指し、SGPを軸により安全でより環境負荷の少ない製造体制を整えてゆきたいと考えています。またSGPが確実に製品づくりに反映されるよう、より一層協力会社様との連携を深め、その実効性を高める努力を続けたいと考えています。



ヨーロッパの代理店様向けに法規制と対応方法を周知いただく説明会を実施



海外各拠点からSGPメンバーが集まり、情報共有をするグローバル会議を開催



SGPのルールに基づき、より実効性の高い仕組みとなるよう、様々な改善点を盛り込みました



大和川クリーンアップキャンペーン

'01年スタート

本社所在地である堺市民の方々とともに、年2回、大規模な大和川の清掃活動を実施しています。2010年も、延べ400名の当社社員ボランティアが活動に参加しました。



ヨシの有効利用

当社が発行する一部冊子や名刺にもヨシの繊維を混ぜた用紙を使用しています。
ヨシを植え付け、刈り取り、この紙を使用するサイクルをつくることで、環境負荷低減をめざしています。
(本冊子は琵琶湖のヨシを混抄したレイクパピルスを使用しています。)



牛乳パックのリサイクル授業で、リサイクルと環境資源の大切さを学びます



環境教育への協力

本社所在地である堺市の小学校を訪問し、牛乳パックをリサイクルした紙漉きの授業を行っています。大和川の清掃活動も含め、これら一連の活動によって幼少期からの環境教育の一端をサポートしています。

「Million Tree Project」の活動

2010年の4月に中国のシマノクンシャン、シマノテンシンのスタッフが、モンゴルの砂漠地帯で植樹を行った「Million Tree Project」。地元の方のサポートを受け、順調に育った新芽の様子が報告されました。



2010年4月



2010年9月



'06年スタート

省エネ対策の本格化

2010年4月1日に全面施行された「エネルギー使用の合理化に関する法律」(以下「省エネ法」)に伴い、従来の製造部門中心の「省エネ専門部会」から国内事業所を対象とした「省エネ推進部会」へと体制を整えました。それに伴い、国内全事業所で無駄なエネルギー消費を抑える手順書「管理標準」を作成し、効率的な運用管理ができるよう随時改善を行っています。

また本年度より、ISO14001を活用して、国内全事業所において、部署毎にエネルギーを可視化(見える化)し、CO₂削減目標を数値化する取り組みを始めました。今後ともCO₂削減の啓蒙活動、及び「低炭素社会」の実現に向けた取り組みを推進していきます。



代理店様に一括注文のご協力をしていただき、配送時に発生するCO₂の削減に取り組んでいます(シマノヨーロッパ：オランダ)



水銀灯を省エネタイプに変更することで、年間58tのCO₂の削減に成功しました(シマノ下関工場)

'06年スタート



労働環境の改善と近隣住民への騒音低減のために、定期的にノイズモニタリングを実施しています(シマノクンシャン：中国)

'99年スタート

騒音対策の本格化

当社本社工場では、プレス騒音削減対策を実施し、**※85dB以下**を目標に設定し、達成しました。

※第1管理区分、耳栓を必要としない数値とされています。

対策前	95.3
対策後	81.8

(dB)



騒音を軽減するカバーを設置するなどの対策を施しています(シマノ本社)

 **BIKE TO WORK**

'98年スタート

シマノアメリカンでは全米で実施される自転車通勤週間にあわせ、「BIKE TO WORK」イベントで一層の自転車通勤を社員に呼びかけています。



このイベントをきっかけに自転車通勤に取り入れる社員も増加

 **エコ通勤優良事業所認定を取得**

本社が実施している自転車通勤推進の取り組みは、交通エコロジー・モビリティ財団から「エコ通勤優良事業所」として認定されています。「エコ通勤優良事業所」認定に基づく取り組み目標として、当社ではマイカー通勤によるCO₂排出量を対前年比(2009年度)で毎年1%ずつ減らすことを計画に盛り込んでいます。2010年は、目標値6608kg削減に対し、約7倍の44804kg削減を達成することができました。2011年度も引き続き、環境負荷低減活動に積極的に取り組みたいと考えています。



自転車通勤手当など制度面でも自転車通勤を推進しています



シマノアメリカンでは、社員用の駐輪場を完備



空気入れや工具を設置した駐輪場や更衣室、シャワー室なども完備



来客用の駐輪施設を2011年から導入します

ライブリリースサポートの提供



プロ・アマ問わず、釣り大会におけるキャッチ&リリースをより確実にするための特別なボートや、計測システムをカナダで開催される大会に提供しました。'96年スタート

大阪環境賞



「シマノグリーンプラン」をはじめとする環境負荷の少ない製品づくりを目指した当社の体制づくり、及び河川での清掃やヨシの栽培を含めた河川保全活動に対して、大阪府より「大阪環境賞奨励賞」を授与されました。

アース・デー活動



シマノクンシャンでは「地球を守り、人類を守る」を合言葉に、近隣の道路や植え込みのゴミ拾いを実施しています。'06年スタート

ゴミの分別収集



ISO14001に準拠し1999年から実施しています。事業所、工場においてゴミを分別収集し、可能な限りリサイクルを行っています。'99年スタート

ビーチ・クリーンアップ



日本ではせんなん里海公園（大阪）で、発生源からゴミを減らし海洋汚染を改善する「国際ビーチ・クリーンアップ・キャンペーン」に賛同し、清掃と同時に、ゴミの種類とその量を調査し、報告しています。'03年スタート



アメリカではカリフォルニア州ボルサ・チカ海岸での清掃活動にチームシマノメンバーが参加しています。'03年スタート

シマノ・クリーンナップ・プロジェクト



「愛すべき私たちのフィールドのためにできること」を合言葉に、釣り場をきれいにするプロジェクトを実施しています。当社主催のイベント参加者はもちろん、一般の皆様にも賛同いただき、ともに清掃活動に取り組んでいます。'03年スタート

WEB SITE : <http://shimano.asa-pri.net/>

製品の修理・サポート



当社ではひとつの製品を長くご愛用いただくことも環境負荷低減につながると考えています。そのため、補修パーツの流通や、販売店様向け修理・メンテナンス講習会の開催、そしてお客様相談窓口による対応など、長く快適にご使用いただくための体制をグローバルに拡げています。



マウント・プライでの清掃・植林活動(シマノマレーシア)



販売店様向けの修理・メンテナンス講習会(シマノラテンアメリカ：ブラジル)

信頼の構築

—— 地域社会に企業市民として参加し協働する

幼稚園での自転車教室開催 (シマノポーランド)



地域社会とのコミュニケーションを密にし、企業市民として共存・共栄を図ることは、当社の理想とする企業姿勢です。日本はもとより、世界各地に拠点を置く地域社会の一員として、地域と一体となって取り組める活動を積極的に行っています。



STAMP (スポーツ教育指導プログラム)への協力 (シマノシンガポール)



こども達と学び考える

'05年スタート

小学校でのキャリア教育

こども達が社会の一員として様々な問題に取り組み、生きるための力を育てることを目的とするキャリア教育。当社では2005年から、地元の小学校で特別講師を務めるなどの協力を実施しています。授業では自転車をテーマとした課題を設定し、企画立案から提案までをグループ単位で実習。課題解決の過程で、物事を論理的に考える力、判断材料を集める行動力、わかりやすく提案する能力、協力して働く力を身につけます。



課題の説明を受け、どこに問題があるのかを探るところから、「考える力」を育てます



課題に対する提案のプレゼンテーションでは「伝える力」も必要



テーマの「自転車」に関する世界記録などを伝え、自転車が持つ可能性を見出してもらいます



最新自転車を教材に、用途にあわせた様々な工夫などを学びます

2010年の実績

小学校名	テーマ
堺市立西陶器小学校 堺市立大仙小学校 堺市立大泉小学校	こんな自転車ほしかってん
堺市立八下西小学校	レンタサイクルを活かしたまちづくり

幼稚園での自転車教室開催

年2回、幼稚園を訪問し、自転車を通じた交通マナーの向上や自然とのふれあいの素晴らしさを提案しています。



シマノポーランド

小学校での環境教育活動

環境問題に対して関心を持ってもらうため、7つの小学校を訪問し、環境教育のサポートや植林活動を行いました。



シマノマレーシア

児童養護施設への寄付

数箇所の児童養護施設を訪問し寄付を行いました。



シマノバタム・インドネシア

老人ホームへの寄付

重陽節に年長者を敬う古くからの習わしに従い、防寒具やヘルスケア用品などを寄付しました。



シマノクンジャン・中国

洪水被害の支援

2009年6月、チェコ南部の集中豪雨によって起こった洪水被害に対して、生活必需品や、成人用おむつなどを寄付しました。



シマノチェコ

洪水被害への寄付

海外関連会社であるパール・イズミ(ドイツ)は、パキスタンの洪水被害の支援として、支援団体である“Deutschland hilft e.V.”に寄付を行いました。

児童養護協会への寄付

2008年からシマノフランスは、児童養護協会に寄付を行っています。

地域での献血活動

チームシマノとしてグローバルに献血に協力しました。



'96年スタート
シマノバタム・インドネシア

'95年スタート



シマノシンガポール

'97年スタート



シマノクンジャン・中国

サイクルイベント開催



シマノシンガポール

地元の小中学生を集め、サイクルイベントを実施。安全な自転車の走行方法やマナーを学びました。



ウイラーズスクールへの講師派遣

'08年スタート

ウイラーズスクールとは、こどもの自転車の操作技術の向上、楽しく快適にサイクリングスポーツを楽しめる環境整備、そして競技人口拡大と世界に通用するサイクリストの育成を目的とした教室です。活動範囲は全国にわたり、2010年は、30以上の会場で、2,000人の子ども達を対象に行われました。この教室に、自転車のテクニックや交通マナーを指導する講師として、シマノレーシングのメンバーを派遣しています。



サイクルアカデミーの開催

'05年スタート

自転車ファンの底辺拡大を目指し、初心者や中級者、あるいは子ども達に、ロードレーサーの基本的なノウハウや乗り方をレクチャーする活動です。シマノレーシングチームの現役メンバーが指導しています。



ポジションやペダリングなどをマンツーマンで確認

STAMP活動への協力

'09年スタート

2010年、シマノシンガポールでは、シュカン、ホンカの両中学校でSTAMP(スポーツ教育指導プログラム)活動への協力を実施しました。プログラムには基本的な自転車の知識、メンテナンス方法、安全運転のための知識とマナーが含まれています。また同年10月、シマノシンガポールはその活動が認められ、政府より感謝状が贈られました。



「シェア・ザ・ロードツアー」、「ペダル・フォー・プロテスト」への協力

'09年スタート

自転車とその他の道路使用者との間で起きる死亡や負傷事故の発生率を減らすことを目的としたイベント「シェア・ザ・ロードツアー」、また前立腺ガンの早期発見を啓蒙するためのイベント「ペダル・フォー・プロテスト」にシマノオーストラリアが協力しました。



2010年度 社会活動報告書を読んで

創業90年を迎えた(株)シマノとそのチーム各社にまず祝意を表したい。

企業はゴーイング・コンサーンを前提としているが、事業や組織の継続は容易いことではない。シマノは早くから自転車部品、釣具などの製品づくりを通して、「人々の健康とよろこびに貢献する」CSR(企業社会責任)の経営を実践してきたことを評価したい。ものづくり企業の基本的社会責任は、市場のニーズや社会の要請に応える製品のサプライであり、それが受け手であるユーザーにとって、「こころ躍る」製品として価値となり、世界で支持され続けてきたからである。



本報告書のトップ・メッセージに「安心感・信頼が、社会が求める最大の価値」とある。

フィリップ・コトラーはマーケティングの進化段階を、製品中心の「1.0」、消費者中心の「2.0」そしていまソーシャルな価値主導の「3.0」として提唱している。不安を抱く消費者のために希望と解決策を与え、より高い次元で感動させる。世界をよりよい「場」とすることを目的として価値を創造するのである。トップ・メッセージにはその意味合いが明示されており、先見的スタンスを見ることが出来る。

シマノの基本軸として、グローバルと共に背伸びせず「着実」な活動ぶりが報告書の4つのフェイズ(企業価値の向上を目指して、歓びの高揚、利用環境の改善と保全、信頼の構築)のすべてにわたって網羅的に挙げられている。製品や人づくり、各種イベント、企業市民活動など、世界各地で幅広く展開されており、地道で持続的な活動そのものは大いに評価できる。

製品では、その市場が大きく伸びつつある欧州へ向けて、電動アシスト自転車用コンポ「Shimano STePS」のリリース、またMTBコンポの「XTRシリーズ」はまさに技術の最高峰を実現してライダーの夢を満たした。釣り具での「ICAST」9年連続、「EFTTEX」4年連続の受賞は偉業として90周年を飾ったと言える。ポート事業でもロウイング「SRD」が国際的大会で技術サポートを始めた。シマノの戦略的先読み力(strategic foresight)と技術力がブランド・ミッションを磨き、ユーザーにも変化を与えることになる。

チームシマノは人づくりにウェイトを置く姿勢が顕著である。特に外国人社員の比率が高く、社内共通語を早くから英語とし、習得に注力してきたことはよく知られている。最近日本の大企業でも英語を共通語とする動きが出てきたが、その面でシマノは先駆的企業である。また現場力養成のための交流や販売店での体験もチームの結束を強める効果は大きいであろう。さらに次世代育成として、世界各地で子供の教育や彼らが参加するイベントを企画し、将来世界をよりよい「場」にするための努力をしていることは時間軸の視点で高く評価されなければならない。

今後の課題として、CSR活動の妥当性を判断する上で「PDCAサイクル」(計画=Plan、実行=Do、監査=Check、改善=Action)が、どのようになされているのかを分かりやすい形で開示することが求められている。主たる目的、目標値や成果が、数値などで示されると説得力と訴求力が出る。たとえば参加者数や地域の評価、チームシマノ各社での日本人と外国人社員の比率などを示すことなどが、より透明度を高めブランド価値を向上させることになる。

これはグリーン環境への対応についても言える。「シマノグリーンプラン(SGP)」の改訂による指針の実効性を高めるため、協力会社との連携、コミュニケーションなど活動実績と共にどれだけ二酸化炭素排出量が削減されたかなどを数値で示してほしい。

また金融商品取引法で義務づけられた内部統制報告書はCSRにとって重要なものなのでその概要を掲載してもらいたい。2010年の報告書は日本語のみでなく、英語、中国語でも発行されるとのことで、グローバル・ブランドである「SHIMANO」にとって望ましいことであり、一層世界の人々からの信頼が高まることであろう。

いま世界は貧困、対立、環境破壊など、多くの社会的問題に直面している。近年これらへの解決を求める声が高まり、企業もその主要なプレイヤーであることを求められている。グローバルに活動するチームシマノがさらに100周年に向け、CSRをベースとした価値創造のソーシャル経営を継続、発展されるよう期待してやまない。

チームシマノ基本理念

シマノは、22の国と地域に生産拠点・販売拠点をおき、世界中で事業活動を展開しています。私たちは世界中のシマノ・スタッフをひとつにまとめ、「チームシマノ」として、共通の理念のもと、共通の目標と共通のプロセスで活動しています。

会社の使命

人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。

[経営の方針]

- お客様に信頼され、満足していただけるサービスと製品を提供する。
- 企業価値を高め、開かれた経営を約束する。
- 達成感と、よろこびを分かち合える、公正でいきいきとした職場づくりに努める。
- 社会の一員として環境を大切に、共に繁栄することを目指す。

[チームシマノの行動指針]

- 豊かな創造性をはぐくみ、たえず自己を啓発する。
- つねに技術の向上に努め、夢の実現に挑戦する。
- 大きく発想し、機敏な行動で着実に実行する。